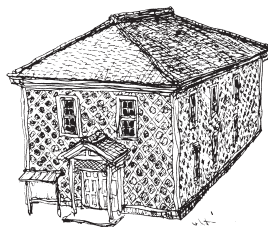


演説館



福澤先生とその門下生たちは、西洋のスピーチ・デイベートを研究し、わが国の「演説」を創始しました。
三田演説館は、1875（明治8）年に開館した日本最初の演説会堂です。

●常任理事

やまぎしこうたろう
山岸広太郎

外部人材活用のおしめ

2021年5月に伊藤公平塾長の執行部が発足して早くも3年余りが過ぎました。この間、私の担当領域である財務、募金、起業家教育・支援だけを見ても、皆さまのご尽力のおかげで、素晴らしい成果を上げることができました。

財務においては、2023年度決算で、約30年ぶりに基本金組入後の当年度収支差額が黒字に転じました。これは、財務部を中心に収支の区分を細分化し、予算の規律を見直したこと、さらに資産運用や外部資金、寄付金が好調だったことが背景にあります。募金活動では、2023年度に百億円を超える寄付のお申し込みをいただきました。義塾全体の周年事業のようなイベントなしにこれを達成できたのは、伊藤塾長の陣頭指揮のもと、基金室が中心となって推進した東京都港区版ふるさと納税を通じたご支援や、クラウドファンディングの導入、大口寄付の獲得が奏功したためです。

起業家教育・支援においては、経済産業省の調査で2023年度の大学別の大学発ベンチャー企業数で慶應義塾大学が全国

2位に躍進しました。また、慶應義塾のベンチャーキャピタルである慶應イノベーション・イニシアティブが202億円のインパクト投資ファンドを設立し、慶應義塾関連スタートアップからは、3年連続で東京証券取引所に上場企業を輩出しています。

これらの成果の背景には、多くの教職員の尽力に加えて、皆さまからの寄付により、塾長室に経営のプロフェッショナルを迎え入れたり、イノベーション推進本部にスタートアップ部門を設置し経験者を実務家教員として採用したり、コンサルティング会社や広告代理店を起用したことなどが挙げられます。

慶應義塾では、私のような教員以外の人間が常任理事になることはまれであり、法人運営に外部の人材を積極的に活用してきませんでした。しかし、一流のプロフェッショナルの中には、その能力を社会貢献に生かすチャンスを求める人が多く、義塾が求めれば喜んで協力してくれます。今回の成功を起点に、今後もプロフェッショナルの力を義塾の発展につなげていくことが重要だと考えています。